

令和5年度 日本学校心理士会千葉支部 総会

日時：令和5年9月3日（日）11：00～11：45

会場：千葉市文化センター セミナー室

1 支部長挨拶

2 議長選出

3 報告

(1) 令和4年度活動報告

(2) 令和4年度収支決算報告

(3) 令和4年度会計監査報告

4 議事

(1) 令和4年度活動報告及び収支決算報告の承認について

(2) 令和5年度活動計画案の承認について

(3) 令和5年度予算案の承認について

(4) 令和5年度役員の承認について

(5) その他

5 議長解任

6 諸連絡

1 令和4年度 活動報告

(1) 令和4年度総会

令和4年9月11日(日) オンライン 出席者 41 名

(2) 研修会

① 令和4年度 第1回研修会 B1 ポイント 参加者 105 名

日時 令和4年6月12日(日) オンライン

講演 「子どもたちの命を守るために 私たちにできること」

講師 中央大学人文科学研究所 客員研究員 高橋聡美 氏

② 令和4年度 第2回研修会 B1 ポイント 参加者 112 名

日時 令和4年9月11日(日) オンライン

講演 「こころの病気のある児童生徒等の教育支援について」

講師 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所情報・支援部総括研究員 大崎博史 氏

③ 令和4年度 第3回研修会 B1 ポイント 参加者 90 名

日時 令和4年11月13日(日) オンライン

講演 「新しい思春期像と対応」

講師 沖縄県 オリブ山病院 児童思春期精神科 児童精神科医 滝川一廣 氏

④ 南関東ブロック研修会(令和4年度 第4回研修会) A ポイント 参加者 88 名

日時 令和5年2月5日(日) 東京情報大学

講演「コロナ禍の子どもたち：マスクとノンバーバル・コミュニケーション / 学校を休むこと、そして皆勤賞と『出席停止』」

講師 千葉大学名誉教授 保坂 亨 氏

(3) 令和4年度合同研究発表会(学校教育相談学会千葉県支部と共催) 参加者 61 名

・期日 令和5年2月5日(日) 東京情報大学

・内容 発表①『コロナ禍による学校現場への影響についての実態調査～アンケート結果から見てきたもの(最終報告)～』

発表②『コロナ禍の小学校における保護者からの教育相談の内容と対応に関する探索的研究』

発表③『教育相談基礎力リストの作成と実践－教育相談における共通の視点を明らかにするために－』

発表④『「支援者になること」の意味と意義－学習支援活動のオートエスノグラフィ的考察－』

発表⑤『キャリア教育主任を対象とした研修効果に関する検討』

(4) 委員会等の会議

・幹事会 令和4年7月24日(オンライン)

・研修委員会 令和5年2月26日(オンライン)

・編集委員会 令和5年2月25日(オンライン)

・准学校心理士対応委員会 令和4年5月29日(オンライン) 令和4年7月18日(オンライン)

令和5年1月29日(オンライン) 令和5年3月5日(オンライン)

2 令和4年度決算報告

1. 収入の部

単位（：円）

項 目	予算額(a)	決算額(b)	差額増減(b-a)	摘 要
1. 前年度繰越金	882,144	882,144	0	
2. 支部費(本部より)	125,000	137,500	12,500	本部より還付 550円×250名
3. 千葉支部会員 会費	170,000	124,000	-46,000	令和3.4年度分 2,000円×59名 1000円×6名
4. 研修会補助金(本部より)	70,000	66,589	-3,411	ZOOM補助金・南関東ブロック研修会補助金
5. 研修会資料代	10,000	63,000	53,000	1,000円×63名
6. 研修会共済負担金	30,000	60,000	30,000	学校教育相談学会千葉県支部より
7. 雑収入	5	6	1	預金利子
合 計	1,287,149	1,333,239	46,090	

2. 支出の部

単位（：円）

項 目	予算額(c)	決算額(d)	差額増減(c-d)	摘 要
1. 事務局費				
通信費	100,000	43,555	56,445	郵送代
事務局委託費	80,000	80,000	0	さくら教育研究所に委託
事務局運営費	50,000	35,363	14,637	zoom契約料金 他
事務用品・消耗品費	100,000	41,237	58,763	プリンター、インク、カメラ 他
2. 活動費				
会議費	50,000	0	50,000	
委員会活動費	40,000	8,800	31,200	資料購入代（准学校心理士対応委員会）
3. 研修会運営費				
講師料	100,000	120,000	-20,000	
会場使用料	50,000	25,990	24,010	総会会場費
共催負担金	30,000	19,000	11,000	学校教育相談学会千葉県支部へ
運営雑費	10,000	27,320	-17,320	講師接待、会場へのお礼 他
4. 研究誌発行費	200,000	0	200,000	
5. 旅費・交通費	100,000	8,800	91,200	事務局駐車料金
6. 予備費	377,149	2,087	375,062	振込手数料
合 計	1,287,149	412,152	874,997	

3. 決算の部

収入総計 1,333,239 円
 支出総計 412,152 円
 差引残高 921,087 円 （次年度へ繰り越し）

上記の通り報告いたします。

令和 5 年 4 月 15 日

会 計 浅見光子

監査の結果、適正であることを認めます。

令和 5 年 6 月 25 日

会計監査 島尾永治

会計監査 高岡秀樹

3 令和5年度活動計画（案）

(1) 令和5年度 千葉支部総会

令和5年9月3日（日） 11:00～11:45 千葉市文化センター

(2) 研修委員会

① 令和5年度 第1回研修会 B1 ポイント

日時 令和5年6月11日（日）13:30～16:00

会場 千葉市文化センター

講演 「学校の教育活動から学校教育相談・学校心理学を問い直す
ー日常の実践や大野精一の言説を参考にー」

講師 東京情報大学総合情報学部 教授 田邊昭雄 氏

② 南関東ブロック研修会（令和5年度 第2回研修会） A ポイント

日時 令和5年9月3日（日）13:30～16:00

会場 千葉市文化センター

講演 「学級の心理的安全性について」

講師 千葉大学名誉教授 蘭 千壽 氏

③ 令和5年度 第3回研修会 B1 ポイント

日時 令和5年10月29日（日） 9:00～12:00

会場 山崎製パン企業年金基金会館(市川市)

講演 「子どもとのかかわり方～児童精神医療の現場から～」

講師 うしじまこころの診療所 院長 牛島洋景氏

④ 令和5年度 第4回研修会 B1 ポイント

日時 令和5年12月3日（日） 13:45～16:15

会場 千葉市美術館

講演 「テーマ未定」（内容：ポリヴェーガル理論を学校現場でどう生かせるか）

講師 千葉大学教育学部教授 花澤 寿 氏

⑤ 令和5年度 第5回研修会 B1 ポイント

日時 令和6年2月4日（日）※予定

会場 東京情報大学 ※予定

講演 「テーマ未定」

講師 千葉県スクールカウンセラースーパーバイザー 森 真琴 氏

⑥ 令和5年度合同研究発表会

日時 令和6年2月4日（日）※予定

会場 東京情報大学 ※予定

⑦ 令和6年度 第1回研修会

日時 令和6年6月16日（日）

会場 千葉市文化センター

内容 未定

(3) 編集委員会

学校教育臨床研究 第4号 発行（令和5年6月）

(4) 准学校心理士対応委員会

① 准学校心理士研修会（2023-I）

日時 令和5年6月17日（土） 14:00～16:00

会場 さくら教育研究所

対象 ① 准学校心理士 ② 准学校心理士以外の学校心理士資格取得を目指す方

内容 ケースレポートの書き方（ゼミ形式）

① 講義1：ケースレポートとは～ケースレポートの書き方（基礎編）～

講師：藤原和政（兵庫教育大学 准教授）

② 講義2「学校心理士認定審査」に向けたケースレポートの書き方

～レポート作成の重要ポイントやスーパーバイズの受け方など～

講師：小柴孝子（やまびこ心理教育研究所所長・千葉大学子どものこころの
発達教育センター客員研究員）

② 准学校心理士研修会（2023-II）

日時 未定

会場 さくら教育研究所

対象 ① 准学校心理士 ② 准学校心理士以外の学校心理士資格取得を目指す方

内容 6月17日と同じ（講師未定）

(5) 海外交流委員会

4 令和5年度予算（案）

1. 収入の部

単位（：円）

項 目	予算額	摘 要
1. 前年度繰越金	921,087	
2. 支部費（本部より）	137,500	本部より550円×250名
3. 千葉支部会員 会費	500,000	1,000円×2年分×250名
4. 研修会補助金（本部より）	50,000	南関東ブロック研修会開催補助金
5. 研修会資料代	10,000	支部会員外の参加者10名
6. 雑収入	5	預金利子
合 計	1,618,592	

2. 支出の部

単位（：円）

項 目	予 算 額		摘 要
1. 事務局費	480,000	通信費	50,000 郵送料・切手 他
		事務局委託費	80,000 さくら教育研究所に委託
		事務局運営費	50,000 ZOOM契約1年・印刷委託 他
		パソコン購入費	200,000
		事務用品・消耗品費	100,000 封筒・コピー用紙・インク 他
2. 研修委員会	220,000	講師料	120,000 講師謝金・交通費 他
		会場費	70,000 総会・研修会・研究発表会
		運営費	30,000
3. 編集委員会	150,000	印刷代	100,000 教育臨床研究第4号印刷
		郵送代	40,000 教育臨床研究第4号郵送
		運営費	10,000
4. 准学校心理士 対応委員会	140,000	講師料	130,000 講師謝金・交通費（研修会2回）
		運営費	10,000
5. 海外交流委員会	10,000	運営費	10,000
6. 旅費・交通費		100,000	大会派遣・本部会議旅費 他
7. 雑費		5,000	手数料 他
8. 予備費		513,592	
合 計		1,618,592	

5 令和5年度 役員（案）

令和5年度日本学校心理士会千葉支部役員

※令和5・6年度の2年任期 ※50音順

顧問	三浦香苗 蘭千尋（育英大学）
〔役員〕	
役職	氏 名（所属）
支部長	田邊昭雄（東京情報大学）
副支部長	青木ゆかり（千葉県総合教育センター）…編集委員会担当 伊藤康弘（県立袖ヶ浦特別支援学校）…研修委員会担当 塚本義雄（銚子市立清水小学校）…准学校心理士対応委員会担当
常任幹事	浅見光子（さくら教育研究所） 荒井明子（秀明大学） 植草伸之（帝京平成大学） 内田守（柏市教育委員会） 梅澤由紀子（市川市立国府台小学校） 片桐力（秀明大学） 小柴孝子（子どものこころ発達教育研究センター） 菅原英一（柏の葉こども園） 張愛子（小田原短期大学） 富樫春人（千葉県スクールカウンセラー） 本間洋（千葉県子どもと親のサポートセンター）
幹 事	足立直也（千葉県子どもと親のサポートセンター） 石井幸江（日本体育大学） 石山博幸 大金文晶（千葉県子どもと親のサポートセンター） 大木静子（八千代市立勝田台中学校） 門永由美（船橋市南本町子育て支援センター） 金高美津子（なんそう心理教育研究所） 川島康代（長柄町立日吉小学校） 桑田美和（千葉県子どもと親のサポートセンター） 齊藤敦子（県立国府台高等学校） 杉崎有衣（千葉県子どもと親のサポートセンター） 高梨智子 高橋かん奈（船橋市東老人福祉センター） 武富教子（千葉市スクールカウンセラー） 長野季子（睦沢町立睦沢小学校） 福田修一（県立生浜高等学校） 藤田拓哉（県立検見川高等学校） 藤原和政（兵庫教育大学） 益田亜矢子（市川市教育委員会） 丸山陽子（千葉ファミリー相談室） 安塚郁子（千葉市スクールカウンセラー）
会計監査	吉岡秀樹（木更津市立第三中学校） 内貴功生（山武市立大富小学校）

〔委員会組織〕

委員会	委員長	委 員	主な仕事
研修委員会	富樫春人	足立直也 大木静子 齋藤敦子 高橋かん奈 福田修一 本間洋	研修の企画・当日の運営など。
編集委員会	荒井明子	梅澤由紀子 川島康代 小柴孝子 藤田拓哉	『学校教育臨床研究』の編集・発行。
准学校心理士 対応委員会	内田守	石山博幸 植草伸之 金高美津子 菅原英一 藤原和政	①准学校心理士の学校心理士への移行支援(ケースレポート作成や受験への対応)。必要に応じて教員採用選考への支援。 ②新たに学校心理士を受験する人への支援(ケースレポート作成や受験への対応)。
海外交流委員会	張愛子	石井幸江 門永由美 片桐力 桑田美和	海外（主に東アジア圏）のスクールカウンセリング事情の視察や関係機関との交流など。

〔事務局〕

事務局長	事務局員	主な仕事
浅見光子	大金文晶 杉崎有衣 高梨智子 武富教子 長野季子 益田亜矢子 丸山陽子 安塚郁子	支部の事務一切。 (会費管理、名簿管理、ホームページ運営、各種印刷、郵送他)

日本学校心理士会千葉支部会則

第1条（名称）

本会は「日本学校心理士会千葉支部」という。

第2条（事務局）

本会の事務局は当分の間、さくら教育研究所(千葉市中央区新宿2-12-1-303)に置く。

第3条（目的）

本会は学校心理士及び准学校心理士の交流、研修、広報、地位の向上を図る。

第4条（事業）

本会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

- ①専門職としての識見・技能を高めるための研修の実施
- ②会員相互の親睦と情報の交換・提供
- ③その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第5条（会員）

本会の会員は、千葉県内に在住または勤務する学校心理士で、日本学校心理士会千葉支部会費を納入した者、及び役員会で認められた者とする。

また、千葉県内に在住または勤務する准学校心理士を準会員とし、準会員においては会費の納入を免除する。

第6条（役員）

本会に次の役員を置く。

- ①支部長 1名 ②副支部長 若干名 ③常任幹事 若干名
- ④幹事 若干名 ⑤会計監査 2名 ⑥事務局長 1名

第7条（役員の任期）

全ての役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

第8条（役員の選出方法）

各役員の選出方法は次のようにする。

- ①幹事は、会員の互選により選出する。
- ②常任幹事・事務局長は、幹事の互選により選出する。
- ③支部長・副支部長は幹事会の推薦により、総会の承認を得る。
- ④会計監査は、支部長が幹事以外の人から推薦し、総会の承認を得る。

第9条（総会、意見の集約）

- ①総会は、年1回以上開催し、必要な事項を審議、決定する。
- ②総会及び各種の決定については、出席者の承認により決定する。
- ③災害等の発生により総会が開催できない場合は、幹事会での審議、決定をこれに代える。

第10条（役員会）

役員会は、常任幹事会並びに幹事会とする。それぞれ、支部長、副支部長を含んで構成し、次の役割を担う。

- ①常任幹事会は諸事業に必要な会務を行う。
- ②役員会の決定については、出席者の承認により決定する。
- ③本則に定めのない事項については、常任幹事会に委任する。
- ④第9条③の場合は、幹事会がこれを行なう。

第11条（会計）

本会運営の経費は、本会則第5条により納入された会費、本部より還元されたもの、及びその他をもって充当する。詳細は別途定める。

第12条（会則変更）

この会則の変更は、役員会の決定と総会の承認によって行うことができる。

付則

1. この会則は平成11年4月1日より施行する。
2. 平成28年3月14日改正
3. 令和3年9月5日改正
4. 令和4年9月11日改正

別記

- (1) 平成13年8月25日に年会費について修正。
 - ①年2,000円から1,000円に減額
 - ②年度途中で学校心理士の資格を得たものの会費は、その年度からとする。ただし、3月の場合は、翌年度からとする。
- (2) 平成22年3月25日に年会費について修正。
 - ①年1,000円から500円に減額
 - ②年度途中で学校心理士の資格を得たものの会費は、その年度からとする。ただし、3月の場合は、翌年度からとする。
- (3) 令和3年9月5日に年会費について修正
 - ①年500円から1,000円に増額
 - ②年会費は2年ごとに納入。奇数年度に銀行振り込みにより2,000円を納入する。
 - ③途中入会の場合は、翌年度会費から納入する。途中退会の場合は返金をしない。

2023 年度論文募集のお知らせ

日本学校心理士会千葉支部編集委員会
日本学校教育相談学会千葉県支部編集委員会

第5号研究誌発行に向けて論文を募集いたします。会員の皆様の日頃の研究・実践をぜひ発表していただければと思います。投稿規定は以下の通りです。どうぞ奮ってご応募ください。

『学校教育臨床研究』投稿規定

(原稿について)

1. 原稿は A4 縦置き・横書き, 1 枚を 40 字×40 行×10 枚程度とし, 字体は MS 明朝, フォントは 10.5 ポイントとする。また, 算用数字は半角とする。
2. 原稿は, 表題, 副題(なくても良い), 所属名と氏名の順に記載し, 1 行あけて書き始める。
3. 投稿論文は, 学校教育臨床に関する内容とし, 上限 10 枚以内(注記, 引用文献, 参考文献, 図表を含む)におさめる。ただし, 編集委員会において認める場合はこの限りではない。
4. 論文の文体は「である」調とし, 常用漢字, 現代かなづかいを用いる。
5. 注記, 参考文献, 引用文献は全体で 8 件以上(実践報告スタイルは 3 件以上)とし, 一括して「文献」として本文の後ろにまとめて掲載し, 文献の著者名のアルファベット順に並列する。文献の年号は初版の刊行年(西暦)とする。表記は以下の例示による。
 - ・単著本の場合 千葉太郎「本タイトル」〇〇出版 2016 pp.95-96
 - ・論文の場合 千葉次郎「論文タイトル」『研究誌タイトル』No.24 2015 pp.95-96
6. 投稿者は投稿論文で紹介する事例における関係者のプライバシーの保護に十分配慮し, 投稿の同意を得たことが分かるように明記する。

(投稿について)

1. 筆頭著者は日本学校心理士会千葉支部会員もしくは日本学校教育相談学会千葉県支部会員であること。
2. 投稿論文は編集委員会が審査し, 掲載を決定し, 投稿者に連絡をする。
3. 投稿論文は日本学校心理士会, 日本学校教育相談学会の会誌, 他学会の会誌への掲載論文は不可とする。
4. 投稿論文は「連絡票」「抄録」「本文」の順に並べ, 各頁に通し番号を入れたもの 1 部を送付する。また, これらを保存した記憶媒体(CD/USB 等)を送付する。※投稿一式の返却はしないものとする
 - ・「連絡票」は所定の枚数とは別に論文タイトル, 執筆者氏名, 支部会員番号, 所属機関と職名, 連絡先住所, 電話番号とメールアドレスを 1 枚にまとめる。
 - ・「論文抄録」は所定の枚数とは別に日本語による 400 字程度を 1 枚にまとめる。
5. 表記の統一・整理及び校正は, 特に申し出のないかぎり編集委員会において行う。
6. 投稿の締切は毎年 12 月末日(消印有効)。発行は翌年 6 月の予定。
7. 投稿についての送付先は編集委員長とする。

送付の際に表に「学校教育臨床研究 投稿原稿在中」と朱書きすること。

(送付先)

〒276-0003 千葉県八千代市大学町 1-1

秀明大学 学校教師学部 荒井明子